

6. 令和7年度茨城県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書

筑波大学附属病院 てんかんセンター 部長 石川 栄一
 筑波大学附属病院 てんかんセンター 副部長 榎園 崇
 筑波大学附属病院 てんかんセンター 副部長 増田 洋亮

1. はじめに

筑波大学附属病院では、各診療科がそれぞれ診療していた縦割りのてんかん診療から、各科連携の強化のために2019年7月からてんかんセンターとして活動を行い、令和2年（2020年）10月に茨城県よりてんかん診療拠点機関として指定を受けた。ここに令和7年度の活動を報告する。

2. 診療実績

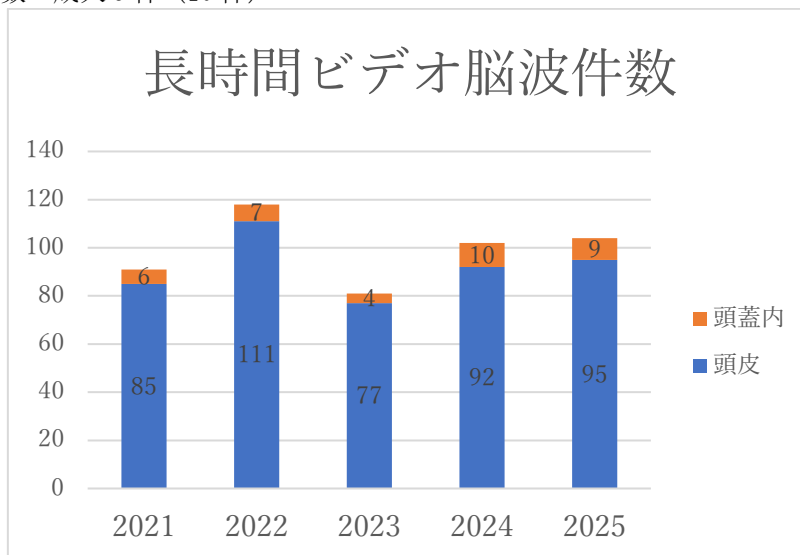
令和7年度のてんかん診療に関わる入院件数はいかに示す通りである。（括弧内は昨年数。）

<令和7年度のてんかん関連の診療実績（提出時点）>

頭皮ビデオ脳波件数：合計95件（92件）

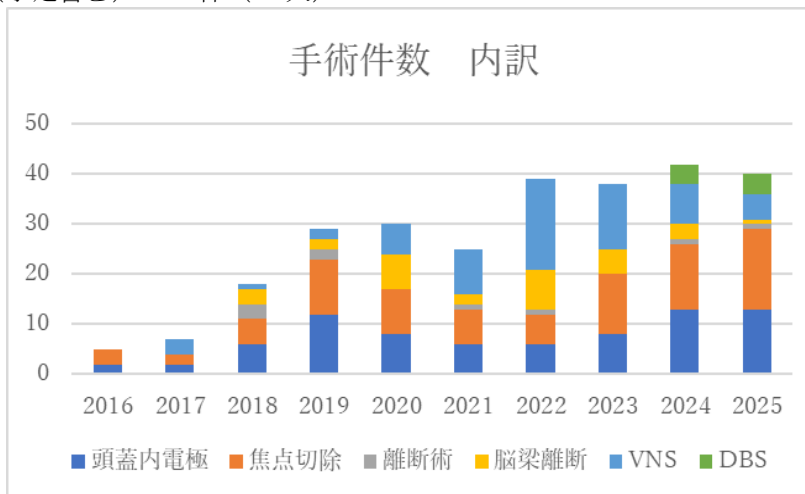
成人科42件（52件）、小児科53件（41件）

頭蓋内ビデオ脳波件数 成人9件（10件）



てんかん手術人数（予定含む） 27人（32人）

てんかん手術件数（予定含む） 40件（43件）



3. 地域連携事業

① てんかん診療コーディネーター

令和5年1月よりてんかんコーディネーター（看護師1名）を新たに配置。

令和5年度には当院てんかんセンターホームページにお問い合わせフォームを開設。かかりつけ以外の患者、家族などから相談事業を行なうことができるようになった。

・相談体制

非常勤パートタイムであるため、月曜10時00分～17時、水曜9時～17時の間で相談に対応。

・相談件数

令和7年度：20件（提出日現在）

・主な相談内容

相談件数で一番多いのは受診相談である。次いで、症状や発作についての相談が多かった。

お問い合わせフォームに予め患者の居住地（都道府県）を記載していただき、茨城てんかん専門医が外勤等で診察を行う近隣の病院を紹介。

その後医師の判断により、手術やその他の治療が必要であれば当院やその他てんかんセンターへ紹介する形をとっている。

② 茨城県てんかん診療ネットワーク

昨年度、県内のてんかん診療の課題やニーズを明らかにし、将来の問題解決につなげることを目的とし、「茨城県におけるてんかん診療の実態調査」を実施した。茨城県内199の医療機関を対象としてGoogle formsにて調査を行った。69名（約35%）、計49施設から回答を得た。回答結果では、専門科は小児科、脳神経外科、脳神経内科、精神科の順で多く、県内9つ全ての保健医療圏より回答を得た。

てんかん重積発作が持続する場合、「搬送可能な専門医療機関は明確である」という回答は52%であった。薬剤抵抗性てんかんを診療した場合、「紹介可能な医療機関は明確である」という回答は74%であった。「16歳以上のてんかん患者を紹介可能な医療機関は明確である」かについては65%が明確ではないと回答した。「小児期発症のてんかん患者を移行することが可能か」については、条件付きで可能という回答が71%を占めた。その条件は、発作が十分に抑制されていること、専門医療機関との併診体制が整っている、などであった。

まとめとして、薬剤抵抗性てんかんに関しては、紹介可能な専門医療機関の認識は比較的浸透しつつあると考えられた。一方で、てんかん重積発作が持続した場合の対応や、成人てんかん患者の診療連携が今後の課題と考えられた。今後、県内それぞれの医療機関の診療体制について、どの医療機関で、どのような患者を対応可能で、どのような検査や処置が可能か、今後、情報共有のシステム作りをすすめていきたい。詳細については、2024年4月の茨城県医師会報へ掲載済みである。昨年のおてんかん診療の実態調査を踏まえて、現在、県内のてんかん診療施設について、実施可能な検査や診療可能な年齢層や病態が一目でわかるようにリスト化し、ホームページへ掲載済みである。

4. 教育・啓発活動

① 院内活動

- ・令和7年度の脳波カンファレンス17回
- ・令和7年度のてんかん症例検討会11回
- ・パープルデーイベント1回

脳波カンファレンスは月2回、てんかん症例検討会は月1回定期開催している。

今年度、WEB上でカンファレンスを配信できる環境を整えられたためWEB配信を行ない、他院の医師や他職種もWEB上で参加している。

パープルデーには院内でリーフレットと紫色のマスクを配布し、てんかんの啓発活動を実施した。

② 院外活動

令和7年2月16日、啓発のための市民公開講座「てんかんとライフプラン」をWEB上で実施。91名に参加していただいた。

てんかんとライフプラン

令和7年2月16日（日）15:00~17:00 web

講演 1	15:00~16:15	「てんかん基礎講座」 総合司会 石川 栄一 先生 (てんかんセンター長 脳神経外科)
	こどものてんかん	上野 裕一 先生 (筑波大学附属病院 小児科)
	成人てんかん	荒木 孝太 先生 (筑波大学附属病院 脳神経外科)
	高齢者てんかん	三橋 泉 先生 (筑波大学附属病院 脳神経内科)
講演 2	16:30 ~ 17:00	特別講演「てんかんとライフプランについて」
		増田 洋亮 先生 (筑波大学附属病院 脳神経外科)

てんかんと就職・結婚・出産について
二宮 奈々美 (筑波大学附属病院 てんかんコーディネーター)
増田 洋亮 先生 (筑波大学附属病院 脳神経外科)

主催：茨城県・筑波大学附属病院
(茨城県てんかん支援拠点病院)
共催：NPO法人 茨城脳神経外科研究会

てんかんの方々にとってライフプラン（就職・結婚・出産）についての悩みは少なくありません。今年はこのテーマに焦点を当てた講演を行います。この講演を通じて、皆さんが少しでも前向きな選択を考える手助けができればと思っております。是非ご参加ください。

お申し込み・お問い合わせ先

- お申し込みはQRコードまたは下記のURLから募集サイトにアクセス願います。
<https://x.gd/GJfE>
- 事前申込をお願いします。申し込み期間 市民公開講座 当日まで
- 定員（450名）になり次第締切。当日のお問い合わせにはお答え出来ません
- ご来場には、パソコン、スマートフォン、タブレットおよびインターネット接続環境が必要です
- 通信料は参加者個人の負担になります。

多人数 無料 先着450名

<お問い合わせ> NPO-TNS-info@nd.tsubu.ac.jp

2025
3.26
PURPLE DAY
てんかん啓発の日

3月26日はPURPLE DAY「てんかん啓発の日」
カナダに住む女の子 キャシディー・メーガンさんが始めたキャンペーン「てんかん」という病気をもち人は、100人に1人。珍しい病気ではありませんが、なかなか人に打ち明けられない悩みをもっている人が多くいます。「てんかんをもつ人を、ひとりぼっちにしない」このキャンペーンでは、世界各国の人がてんかんをもつ人への応援のメッセージを込めて“紫色のもの”を身につけます。
皆さんも一緒に“紫色のもの”を身につけて、てんかんのある人を応援しましょう！

日時：2025.3.26 (Wed) 13:00-16:00
場所：筑波大学附属病院 玄関ホール 展示

主催：筑波大学附属病院 てんかんセンター

5. 今後の課題

令和5年より、当院では専任のてんかんコーディネーターを配置し、てんかん患者の皆様がより相談しやすい環境を整えるためにお問い合わせフォームを開設した。

お問い合わせフォームを開設してから2年間が経過し、当院のてんかんセンターホームページを通じて20件の相談があった。（提出時点）令和7年度より、ホームページには茨城県のてんかん専門医がいる病院を紹介しているリストを新たに掲載し始め、多くの方がこれを参考にして直接受診されるケースも増えていると考えられる。

しかしながら、まだまだこのお問い合わせフォームを知らない方も多くいらっしゃると感じている。今年度は予算の関係で実施できなかった、各施設へのリーフレット配布を来年度には実施し、お問い合わせフォームの啓発を進めていく予定である。今後もより多くの方に正しい情報を提供し、適切な医療を受けていただけるよう努めていく。

パープルデー・市民公開講座も、市の職員などを含め多くの方に啓発していただき、毎年参加者は100名近くとなっている。今後も様々な場面で啓発を行い、より多くの方に参加・興味を持ってもらえるよう努めていきたいと考える。